令和６年１２月１０日

文 化 振 興 課	(公財)岡山県郷土文化財団
宮本・矢田部	信江 ・三村
内線 3141･3143	
086-226-7901	086-233-2505

お 知 ら せ

第 17 回岡山県「内田百閒文学賞」受賞作品の決定！
～文学から岡山の魅力発信～

全国から岡山にゆかりのある文学作品（随筆及び短編小説）を募集していた第 17 回岡山県「内田百閒文学賞」受賞作品が決定されましたので、下記のとおりお知らせします。

記

１　賞の概要

内田百閒生誕百年を記念して平成２年度に「岡山・吉備の国文学賞」として創設。平成 12 年度（第６回）から「内田百閒文学賞」に改称し、今回で 17 回となります。

２　受賞作品及び受賞者（詳細は別添のとおり）

最優秀賞（岡山県知事賞）
『泣き女』　寺田　勢司

優 秀 賞（岡山県郷土文化財団理事長賞）
『へのへの茂次郎』　疋田　ブン（ペンネーム）

優 秀 賞（岡山商工会議所会頭賞）
『アゲハの記憶』　山本　博幸

３　応募及び審査の状況

（１）募集部門　　随筆及び短編小説（400 字×50 枚以内）
（２）応募数　　305 編
（３）地域別内訳　県内 61 編、県外 244 編（うち国外５編）
（４）審査状況　　第１次、第２次審査を経て、最終審査会で受賞作品を選定
（５）最終審査員　小川 洋子、平松 洋子、松家　仁之

４　その他

（１）表彰式
令和７年４月 25 日（金）岡山県立美術館 ホール
（賞金：最優秀賞 100 万円、優秀賞 各 20 万円）

（２）作品の発表
受賞作品は「内田百閒文学賞受賞作品集」として令和７年４月上旬に出版予定

５　お問い合わせ

（公財）岡山県郷土文化財団事務局 TEL086-233-2505

第17回岡山県「内田百閒文学賞」受賞作品

【最優秀賞】　（岡山県知事賞）

作品名	泣き女（なめ）　（ジャンル：短編小説）
作者名	寺田（てらだ）　勢司（せいじ）　（本名）
プロフィール	・昭和59(1984)年10月28日生(40歳) ・大阪府在住 ・自営業 〈受賞歴〉 第38回さきがけ文学賞 選奨 受賞 第40回さきがけ文学賞 入選 受賞 第27回伊豆文学賞 最優秀賞 受賞

作品の概要
江戸時代、美作津山の坪井に住む産婆ひさは、貧しい百姓のお産に立ち会う。生まれた女児は養子に出すか、間引くかを依頼され、ひとまず赤子を連れ帰る。また、当地の産婆は、死者の身体を清める湯灌や葬儀の際に泣いて送り出す「泣き女」という役も担っていた。ある日、「泣き女」を依頼された家の幼女から、祖父は笑って送ってくれと言っていたという意向を聞かされる。幼女が笑って送ろうとして家人に止められる中、ひさたちはためらったものの幼女のひたむきな態度に心打たれ笑って送り出した。慣習をやぶったことで詮議されるが、生死に関わる者の心の内を述べ、また、家で預かっている女児は自らが育てる決心をする。

審査員講評
かつて日本の習俗のなかに根付いていた産婆、子殺し、泣き女、湯灌を取り上げ、女性たちが担わされてきた苦楽を描く。土俗的なテーマを扱いつつ、タブーやエロスの世界にも踏み込み、為政者と底辺を生きる者との構図も鮮やか。現代を撃つ作品である。

※年齢は令和6(2024)年12月10日時点

第17回岡山県「内田百閒文学賞」受賞作品

【優秀賞】　（岡山県郷土文化財団理事長賞）

作品名	へのへの茂次郎（もじろう）　（ジャンル：短編小説）
作者名	疋田（ひきた）　ブン　（ペンネーム）
プロフィール	・昭和37(1962)年９月16日生（62歳） ・東京都在住 ・会社員 〈受賞歴〉 なし

作品の概要
舞台は、明治中期の邑久郡本庄。少年茂次郎（のちの竹久夢二）は、出かけた岡山で女の身投げを目撃する。その時、胸に抱いていたのは、のっぺら坊の凧。茂次郎には秘密の遊びがある。その秘密があらわになった時、その羞恥と後悔を誤魔化すように、のっぺら坊に目鼻口を入れる。ある日、目鼻口を入れたのっぺら坊の凧を揚げるが、月見草が咲く川に落ちる。その頃、本庄に女旅芸人の一座が現れる。一座の座長に父が貢いだと母は泣く。茂次郎は両親の言い争いから逃れようと、落ちた凧を川に見に行く。そこで女旅芸人と男がもめている現場にでくわす。身投げした女の記憶に、川の水に消えたのっぺら坊の顔と、目の前の女旅芸人が錯綜する。錯綜しながら、茂次郎は大人ぶって、月見草の別名は、『宵待草』だと言う。女旅芸人は、それは間違っていると言う・・・・・・。

審査員講評
凧、のっぺら坊、鷺、月見草などささやかな物を印象深く描きながら、竹久夢二の少年時代を色彩やかに浮かび上がらせた作品。尚かつ、夢二の芸術的センスの萌芽を予感させる面白さにも心ひかれる。

※年齢は令和６(2024)年12月10日時点

第17回岡山県「内田百閒文学賞」受賞作品

【優秀賞】　（岡山商工会議所会頭賞）

作品名	アゲハの記憶（きおく）　（ジャンル：短編小説）
作者名	山本（やまもと）　博幸（ひろゆき）　（本名）
プロフィール	・昭和32(1957)年８月５日生（67歳） ・長崎県諫早市目代町在住 ・無職 〈受賞歴〉 第６回安川電機九州文学賞 大賞 受賞

作品の概要

入社式当日、解離性障害を発症して記憶をなくした沙織は、幼い時を過ごした岡山にやってきた。この街に転校してきた小学一年生の時も記憶をなくしたが、悠平と恵子という老夫婦の住む家で過ごすうちに癒されたことを思い出したからだ。その家には、死んだ恵子が残した果樹や野菜、花々が育つ庭がありアゲハ蝶が乱舞していた。恵子が生前、空襲で死んだ子どもたちが蝶になってここに来ていると語っていたことを思い出す。ある時、沙織は夢の中でアゲハ蝶になる夢を見た。目が覚めると悠平は生物の進化を語り、再生していく自分を感じる。やがて悠平も亡くなり、この家は取り壊されることになる。

審査員講評

こころに病を抱えた主人公が、庭で果樹を育て慈しみ静かに暮らす老夫婦と出会う。戦争の記憶、アゲハ蝶の生態などを追いながら、生きることへの望みを回復してゆく。幻想にとどまらず、苦味もふくんだファンタジックな作品。

※年齢は令和6(2024)年12月10日時点